

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院消化器内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みにになり、ご自身がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2023年1月1日 ～ 2026年6月30日の間に、虎の門病院で精査の大腸内視鏡検査をうけた方のうち、内視鏡または外科手術を受けて早期大腸癌と診断された20歳以上の方

【研究課題名】

Red Dichromatic Imaging (RDI) を用いた早期大腸癌深達度診断に関する検討

【研究の目的・背景】

《目的》

この研究では、これまでに行われた内視鏡検査の画像と、治療後の病理検査の結果を比較し、大腸がんの深達度と関連する RDI の特徴的な所見を調べます。これにより、将来的に大腸がんの深達度をより適切に診断し、治療方針を決定するために役立つことを目指します。

《研究に至る背景》

大腸がんでは、がんが腸の壁のどの深さまで入り込んでいるか（深達度）によって、内視鏡治療や外科手術などの治療方針が異なります。そのため、治療前の内視鏡検査で深達度をできるだけ正確に診断することが重要です。

Red Dichromatic Imaging (RDI) は、内視鏡画像を強調して観察する方法の一つで、大腸病変の表面構造をより見やすくできる可能性があります。しかし、RDI による観察所見と大腸がんの深達度との関係については、まだ十分に明らかになっていません。

本研究によって深達度と関連する特徴的な RDI 所見が明らかになれば、将来的により簡便で正確な深達度診断が可能となり、患者さんに適した治療方法の選択に役立つことが期待されます。

【研究期間】

2026年9月17日 ～ 2027年12月31日

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別するこ

とができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院において研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

診療情報：診療録、内視鏡記録

【虎の門病院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：消化器内科 ・ 早坂 淳之介

研究機関の長：院長 門脇 孝

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、 2027年3月31日 までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 消化器内科 ・ 早坂 淳之介

電話 03-3588-1111(代表)